

# 平成20年の家計調査結果(水戸市)について

茨城県企画部統計課 物価家計グループ 磯崎 克子

家計調査は、昭和21年から実施されている非常に歴史のある調査であり、家計収支の実態を把握することで、国の経済政策、社会政策の立案の基礎資料を得ることを目的としています。

調査世帯数は、都道府県庁所在都市を中心に全国で約9,000世帯選定されており、茨城県内においても毎月156世帯からご回答いただいております。家計調査の結果は、国内総生産（GDP）の5割以上を占める個人消費の動向を判断する主要な指標として位置づけられており、日本経済の状況を見るうえで非常に注目されています。

平成20年家計調査の都道府県庁所在市別ランキングを基に、水戸市の全国的な位置と特徴を見てみました。

## 水戸市の調査客体

水戸市の2人以上の調査世帯数は毎月96世帯であり、世帯には半年間継続して家計簿を記入していただいております。平成20年の調査世帯の状況は、世帯人員3.07人（全国：3.13人）、有業人員1.29人（全国：1.39人）、世帯主の年齢53.8歳（全国：55.7歳）、持家率62%（全国：81.3%）、家賃支払世帯割合36.5%（全国：17.6%）となっており、全国と比較すると持家率の低さがうかがえます。

## 年間消費支出は361万円で全国19位

平成20年の水戸市の2人以上の世帯における1世帯あたり年間消費支出額は、3,609,721円と全国19位、平成19年の消費支出は4,013,702円で6位でした。平成20年は前年と比較して403,981円（10.1%）減少しております。

平成20年の全国の動きをみても、3月以降は連続で対前年同月比はマイナスで推移し、前年に比べ実質1.9%の減少となりました。平成20年は、原油価格の高騰などにより消費者物価指数が7～9月期をピークに上昇し、9月には世界的な金融危機が発生しました。

平成21年に入っても4か月連続で対前年同月比はマイナスで推移しました。

消費した品目で、まず、毎年のように全国トップクラスにあがってくるのが、本県の特産品として非常に親しまれております納豆、しじみ、メロンです。さらに20年は、いちごが支出金額・購入数量ともに全国1位になりました。





消費支出額の内訳

次に、ここ10年で家計の消費はどのように変化したのでしょうか？その動きをみていきたいと思えます。家計の消費支出は10年前と比べ約9.8%減少しています。これは全国的にも同様の結果がでています。

表1 ここ10年の水戸市と全国の10大費目別消費額の比較表

(単位：円，%)

		消費支出	食料	住居	光熱水道	家具家事	被服履物	保健医療	交通通信	教育	教養娯楽	その他
全 国	1998年	3,938,235	1,027,293	244,970	252,358	150,395	230,207	135,859	422,041	175,757	406,811	892,544
	構成比	100	26.1	6.2	6.4	3.8	5.8	3.4	10.7	4.5	10.3	22.7
	2008年	3,563,187	905,557	202,858	273,156	124,285	159,505	152,940	471,901	152,757	395,487	724,741
	構成比	100	25.4	5.7	7.7	3.5	4.5	4.3	13.2	4.3	11.1	20.3
水戸市	1998年	4,001,630	966,835	243,081	244,015	143,524	255,076	172,519	483,502	167,895	435,410	889,772
	構成比	100	24.2	6.1	6.1	3.6	6.4	4.3	12.1	4.2	10.9	22.2
	2008年	3,609,721	865,817	299,201	262,768	123,584	186,102	145,284	446,441	147,006	419,064	714,455
	構成比	100	24.0	8.3	7.3	3.4	5.2	4.0	12.4	4.1	11.6	19.8

「その他」には、諸雑費、こづかい、交際費、仕送り金などが含まれます。10年前と比較すると大きく減少していますが、中でもこづかいは、10年前は28万円を超えておりましたが、平成20年は14万円（水戸市）と家計のやりくりの大変さがうかがえます。また、被服履物費の減少が目立っており、全国の結果をみても同様に減少が見て取れます。

水戸市の平成20年の調査世帯は全国と比較すると持家率が低かったことから、住居費の割合が高くなっていることがうかがえます。

なお、水戸市の調査サンプル数は各月96世帯と少ないため、調査世帯において高額な支出があると調査結果に偏りが生じることがあります。

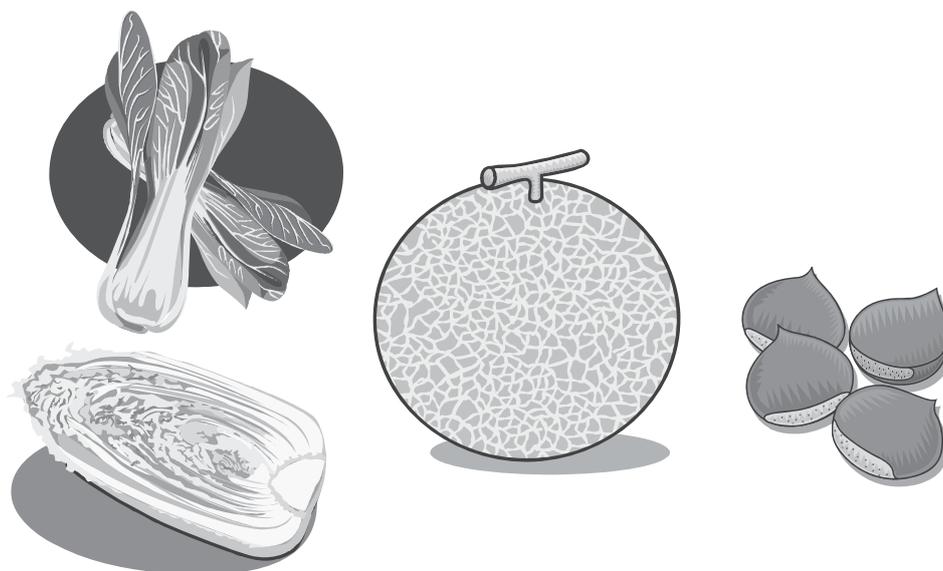
このように、家計調査からは時代や世相の変化を捉えることができます。

原油価格の高騰によるガソリン及び灯油価格の大幅な上昇や、中国産冷凍ギョーザが原因と疑われる健康被害の発生などの影響が家計調査の結果からは見て取れます。

家計調査の結果をみると皆さんから集められた統計データは、大変貴重な資料となっていることが実感できます。今後も家計調査へのご協力をお願いします。

## 農業産出額と茨城の日本一！～農業編～

茨城県企画部統計課 普及情報グループ 関 将宗



茨城県が全国に誇る産業の一つとして、「農業」があげられます。茨城県がいかに農業に適した環境を有しているかをデータから見てみます。

本県の可住地面積（総面積から林野面積及び湖沼面積を差し引いた面積を表す）は3,976km<sup>2</sup>と実に総面積の約65%を占め全国第4位（平成19年）となっており、農地や道路も含め居住地に転用可能な平野部が多い茨城県の特徴が見て取れます。

茨城県の耕地面積は、1,766km<sup>2</sup>で、県土に占める割合は、29.0%（平成19年）となっており長年全国第1位です。

この恵まれた環境のなかで、茨城の収穫量日本一の農産物はメロン、くり、れんこん、ちんげんさい、秋冬はくさい、夏秋なす、夏秋ピーマンなど実に多様です。

今回は、そのうちのメロン、くり、れんこんをピックアップしデータを掲載しました。



### 1 農業産出額

「農業産出額」における都道府県別順位に焦点を当てて見てみますと、平成19年で茨城県は4,082億円と北海道（9,809億円）、千葉県（4,119億円）に次いで全国第3位となっています。

この「農業産出額」において茨城県は以前から全国の中で上位に位置しています。

長年全国第1位は、北海道ですが、近年では第2位以降の順位が茨城県、千葉県、鹿児島県、愛知県、宮崎県などの間で入れ替わっている状況です。

次の図は、昭和50年～平成19年までの農業産出額上位都道府県の推移です。

農業産出額上位都道府県の推移（昭和50年～平成19年）

（単位：億円）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
昭和50年	北海道 (6,744)	茨城県 (4,127)	千葉県 (3,627)	新潟県 (3,366)	福島県 (3,254)	長野県 (3,003)
昭和60年	北海道 (11,094)	茨城県 (5,172)	千葉県 (4,656)	鹿児島県 (4,307)	新潟県 (4,116)	熊本県 (3,886)
平成6年	北海道 (11,644)	千葉県 (5,109)	茨城県 (4,907)	鹿児島県 (4,392)	新潟県 (4,169)	熊本県 (3,993)
平成18年	北海道 (10,527)	鹿児島県 (4,079)	千葉県 (4,014)	茨城県 (3,988)	宮崎県 (3,211)	愛知県 (3,108)
平成19年	北海道 (9,809)	千葉県 (4,119)	茨城県 (4,082)	鹿児島県 (4,053)	愛知県 (3,154)	宮崎県 (3,078)

資料：農林水産省：生産農業所得統計

都道府県別の順位は、北海道が、昭和50年から第1位を維持しています。昭和60年以降は、2位以下に2倍以上の差をつけています。他の都道府県を見てみますと、昭和50年に12位であった鹿児島県が、平成18年には茨城県を抜いて第2位になっています。また、昭和50年に第21位であった宮崎県が、平成18年には第5位になりました。この上昇の一つの要因は、鹿児島県、宮崎県ともに肉用牛の産出額が、昭和50年から平成19年にかけて倍以上になったことがあげられます。両県ともそれぞれ、昭和50年の肉用牛による産出額は269億円（鹿児島県）、226億円（宮崎県）でしたが、平成19年では816億円（鹿児島県）、621億円（宮崎県）と大きく飛躍しています。

茨城県は、昭和50年から平成5年にかけて全国第2位を維持してきましたが、平成6年には全国第2位の座を千葉県に明け渡しました。

茨城県では、平成15年度に「茨城農業改革大綱」を作成し、消費者のベストパートナーとなる茨城農業の確立を図ることで農業産出額、全国第2位奪還を目指しています。

さらに、都道府県別農業産出額の構成をみるとある特徴が見て取れます。

関東地方の茨城、千葉では産出額が多い順に、野菜、畜産（肉用牛・乳用牛・豚・鶏など）、米となっています。そして、両県ともに野菜、畜産（肉用牛・乳用牛・豚・鶏など）、米の構成比のバランスが良いのが特徴です。

これに対し、九州地方の鹿児島、宮崎では米の産出額が比較的少なく、畜産（肉用牛・乳用牛・豚・鶏など）の産出額が両県ともに全産出額の半分以上を占めています。

平成19年農業産出額構成比（野菜・畜産・米）

（単位：％）

県名	野菜	畜産	米	その他
茨城	37.7	25.9	21.1	15.3
千葉	40.0	24.6	17.1	18.3
鹿児島	10.6	57.8	5.9	25.7
宮崎	21.7	57.1	5.8	15.4

資料：農林水産省：生産農業所得統計

## 2 茨城県の収穫量日本一

### メロン収穫量日本一

県内の主な産地は鹿行地域。最近では、県が独自ブランドの新品種メロン「イバラキング」を開発しました。更には、銚田市産メロンを使用したメロンプリンの販売や同産メロンを使用したメロンパンがコンビニエンスストアなどで発売されるなど、茨城産メロンの更なるブランドイメージ向上に向けた様々な取り組みが行われています。

メロンの収穫量全国順位の推移（昭和50年～平成19年）  
（単位：t）

	1 位	2 位	3 位
昭和50年	熊本県（41,803）	茨城県（39,450）	愛知県（32,100）
昭和60年	熊本県（72,730）	茨城県（67,050）	愛知県（36,600）
平成10年	茨城県（64,200）	熊本県（60,700）	北海道（46,500）
平成19年	茨城県（48,800）	北海道（34,200）	熊本県（32,700）

資料：農林水産省統計表

### くり収穫量日本一

茨城のくりの栽培は明治初期から始まっており、古い歴史があります。近年は茨城のくりの素材を活かしたスイーツなど、付加価値を加えた商品も登場しています。

くりの収穫量全国順位の推移（昭和50年～平成19年）  
（単位：t）

	1 位	2 位	3 位
昭和50年	茨城県（11,200）	愛媛県（7,290）	熊本県（6,330）
昭和60年	茨城県（7,570）	愛媛県（6,520）	熊本県（4,530）
平成10年	茨城県（5,020）	熊本県（4,060）	愛媛県（1,760）
平成19年	茨城県（5,350）	熊本県（3,000）	愛媛県（1,690）

資料：農林水産省統計表

### れんこん収穫量日本一

県内の主な産地は土浦市、かすみがうら市、小美玉市、稲敷市などです。蓮の地下茎であり、常磐線の車窓から広大に広がるハス田を見ることがもできます。

れんこんの収穫量全国順位の推移（昭和50年～平成19年）  
（単位：t）

	1 位	2 位	3 位
昭和50年	茨城県（20,500）	徳島県（12,000）	愛知県（9,620）
昭和60年	茨城県（20,300）	徳島県（14,800）	愛知県（10,800）
平成10年	茨城県（23,400）	徳島県（11,500）	愛知県（7,150）
平成19年	茨城県（25,900）	徳島県（7,590）	愛知県（4,110）

資料：農林水産省統計表